

民間航空機に関する市場予測 2026-2045

～納入遅延、受注過多。続く戦争、迫るCO2。203x年待望の新機種は!!～

新型コロナ禍が収束し、サプライヤーの混乱を乗り越えて民間航空機の需要が戻り始めています。また政治的背景から、我が国の防衛力整備にも一層の期待が寄せられ、航空宇宙産業は活況を呈しています。

これらの影響は、民間/防衛、機体/エンジンと事業毎に大きく異なるため、個々のニュースを追いかけるだけでは理解が難しいものとなっています。

今回は、民間航空機に的を絞り、20年後までを見込む長期予測と、その間に予見される周辺の事柄について解説いたします。

2026年 9月28日(月) 13:30—15:50 開催

■講演内容

「民間航空機に関する市場予測 2026-2045
～20年間の需要を予測する～」

一般財団法人日本航空機開発協会

調査部 主査 **加藤 修 氏**

■会場

テクノプラザ ものづくり支援センター本館4階 プラザホール
(各務原市テクノプラザ1丁目1番地)

■対象

県内に本社または事業所のある中小企業の方(航空・宇宙産業)

■参加費 無料

■定員 60名

■申込期限 9月14日(月)17:00

無料

主催：公益財団法人岐阜県産業経済振興センター

お問
合せ

公益財団法人岐阜県産業経済振興センター 技術振興部技術支援課 新田・田口・光井
☎ 058-379-2212 aerospace-GPC * gpc-gifu.or.jp

(注)メールアドレスの*を@に変えて送信してください。

※本事業は岐阜県の補助金で実施しています。

※お申込み後、2～3日経っても受付連絡がない場合はお問い合わせください。



一般財団法人日本航空機開発協会 (JADC)
かとう おさむ
調査部主査 加藤 修 氏

平成2年／1990年 川崎重工業株式会社入社(航空宇宙部門)。
空力技術ベースの防衛技術者として戦闘機F-2、哨戒機P-1、輸送機C-2 の開発に参加。
2004年以降、企画部～事業開発部で無人機の調査検討等に参加。
2015年にJADCへ出向し、旅客機の需要予測を担当して現在に至る。

JADCの紹介
YS-11を開発した日本航空機製造の後身として1973年に設置された民間輸送機開発協会(CTDC: Civil Transport Development Corporation)を1982年に改称したものが、現在の日本航空機開発協会(JADC: Japan Aircraft Development Corporation)です。
JADCは、日本が767旅客機の開発に参加して以来日本側とボーイング社との間で窓口機関として機能しているほか、我が国の航空機産業や関係方面が長期にわたる製品戦略の立案や事業計画を作成する際の資料とするために、民需の航空輸送需要や機材需要についての長期予測を実施してその内容を公開しています。

会場案内

<https://www.gifu-techno.jp/access>



お申込みはQRコード、ホームページまたは下記からお進みください。

- 個人情報の管理には、当センターの個人情報保護宣言(<https://www.gpc-gifu.or.jp/center/privacy.asp>)に基づき
取り扱います。
- ホームページ ➡ <https://www.gpc-gifu.or.jp/topics/2026080301/index.asp>



FAXでの申込み (058-379-2215)

1. メールアドレス _____
2. 貴社名 _____
3. 貴社の業種 ☐ 航空・宇宙産業 ☐ その他: _____
4. 部署・役職 _____
5. ご氏名 _____
6. 貴社のご住所【都道府県・市町村】 _____
7. 電話番号 _____
8. 加藤講師へのご質問 _____